

「国際通貨基金・世界銀行年次総会」を48年ぶりに東京で開催

01



2015年以降の開発目標の枠組みの在り方について、世界銀行や国連機関、各国の要人たちと議論する田中理事長(右から2人目)



今後の連携強化に合意した田中理事長とイスラム開発銀行のアリ総裁

10月9～14日、「国際通貨基金（IMF）・世界銀行年次総会」が48年ぶりに東京で開催されました。世界の政財界関係者や有識者が経済開発課題を議論するIMF・世界銀行主催の公式セミナーが全体会合などと並行して多数開催され、田中明彦JICA理事長も次の4つのセミナーに登壇しました。

「地球規模課題としての保健」のセミナーでは、冒頭のあいさつで「保健分野への投資は学習能力や生産性の向上、医療費による貧困化の予防などに貢献できる」と指摘。保健医療サービスの予算不足という開発途上国の現状を踏まえ、支援国、市民、民間を巻き込んで議論していく必要性を提起しました。

「雇用と開発」のセミナーでは、JICAも執筆協力した世界銀行の世界開発報告書2013「Jobs」の概要にも触れつつ、すべての人が恩恵を受ける開発に欠かせない就業と政策の関係に焦点を当て、世界各地の政策担当者が紹介した事例を基に議論が行われました。

また、JICAはサイドイベントとして、東南アジア諸国連合（ASEAN）地域での安定した食料供給や「アラブの春」後の中東・北アフリカ地域への支援の方向性などについて議論する場を設けたほか、イスラム開発銀行のアハマド・モハメッド・アリ総裁主催の昼食会でも田中理事長が基調講演を行いました。

JICAは、今回の議論を基に、開発課題の解決に取り組んでいきます。

「2015年以降の開発目標」には、「持続可能性と強じん性の概念の導入が必要」と述べ、世界共通の目標を設定した上で、各国の状況に応じた達成方法を考える必要があると話しました。

「ミレニアム開発目標（MDGs）」のその後を議論するセミナーでは、

田中理事長、イラク訪問で今後の支援方針を確認

02



北部のエルビルを視察する田中理事長。クルディスタン地域自治政府と今後の支援の方針について議論

田中明彦JICA理事長は、10月30日～11月2日にイラクを訪問しました。首都バグダッド市内ではスリーバーリー外務大臣と会談。同大臣からは「JICAが行ってきた支援がイラクの復興に貢献している」との感謝の意が表され、エネルギー分野の開発など取り組むべき課題が多くあるとJICAの継続的な支援への期待が示されました。

続いて、ハミード・ハラフ官房長代行、サミール・アブバス・ガドバイン首相顧問会議議長らとの会談では、民間セクターの活性化に向けて、日本企業の進出支援の要望が伝えられました。田中理事長は民間投資拡大の重要性に賛同し、インフラの整備や人材育成、国際基準に沿った制度運用などの面で協力する考えを示しました。

また、近年目覚ましい経済発展を遂げている北部のエルビル市内も視察。民間セクター開発や女性の自立支援などを指すことを、フアラ・ムスタファ・クルディスタン地域自治政府外務庁長官と確認しました。

2003年に日本政府が公約した35億ドルの支援を達成した対イラク支援。JICAは今後も同国の復興に向けて協力していきます。

名古屋で「ワールド・コラボ・フェスタ2012」開催

03



JICAブースにも多くの人が訪れ、スタッフによるJICA事業の説明に熱心に耳を傾けていた

10月27、28日、中部地域最大の国際協力のイベント「ワールド・コラボ・フェスタ2012」(JICA中部など4団体が主催)が名古屋市栄のオアシス21などで開催されました。今回は、国際機関やNGO、企業など約1000団体が出席。2日間で約10万人が来場し、それぞれの団体が紹介する国際協力の取り組みが見入っていました。

JICAも中部地域の方々に国際協力を身近に感じてもらえるよう、さまざまな企画を提供。来月6月に開催される「第5回アフリカ開発会議(TICAD V)」を前に、アフリカの今を伝えるクイズコーナーや、JICAボランティアに関心がある方を対象にした個別相談ブース、草の根技術協力事業の活動を紹介するブースなどを設けました。

メインステージでは、JICA中部オフィシャルサポーターの空木マイカさん、原田さとみさんによる途上国視察レポート、医師の桑山紀彦さんが音楽と映像を交えて国際協力について伝える「地球のステイジ」東日本大震災と国際協力、名古屋おもてなし武將隊によるトークショーなどが行われ、たくさんの方々にぎわっていました。